

岡崎 文雄 著

大分の石橋探訪



Vol.32 臼杵市 (2)

旧臼杵市

初版：2007年11月9日発行

目次&収録石橋目録

(表中をクリックすると各橋のページが開きます)

新市郡	合併前の市町村名	番号	橋名	きょうめい	所在郡市町村名	種類	架替時期
白杵市	白杵市 (2)	342	宇治橋	うじばし	白杵市大字前田白馬溪	アーチ橋	
		343	岩橋	いわはし	白杵市大字前田白馬溪	桁 橋	
		344	高山橋	たかやまはし	白杵市大字高山	アーチ橋	
		345	荒田家野橋	あらたいえのばし	白杵市大字家野	アーチ橋	
		346	【才倉橋】	さいくらばし	白杵市大字中白杵	アーチ橋	H 5 年架替
		347	久保橋	くぼばし	白杵市大字吉小野久保	アーチ橋	
		348	川代橋	かわしろばし	白杵市大字吉小野王座	アーチ橋	
		349	川原橋	かわばるばし	白杵市大字久木小野川原	アーチ橋	
		350	大典橋	たいてんばし	白杵市大字武山提内	アーチ橋	
		351	吐合橋	はきあいばし	白杵市大字武山	アーチ橋	
		352	音波橋	おとわばし	白杵市大字高山高須	アーチ橋	
		353	乙見橋	おとみばし	白杵市大字乙見	桁 橋	
		354	近戸橋	ちかどばし	白杵市大字乙見	アーチ橋	
		355	杭河内橋	くえかわちばし	白杵市大字乙見杭河内	アーチ橋	

- ① 各橋に便宜上 001 ~ 618 の通し番号を付加した。
- ② 【加勢橋】などカッコ付きは撤去された橋。
- ③ 市町村名は合併後の新市町村名称とし、合併で旧町村名が消えた町村は(旧佐賀関町)、(旧野津原町)(旧香々地町)(旧真玉町)を付記し、三光村〇〇→三光〇〇、大田村〇〇→大田〇〇、宇目町〇〇→宇目〇〇、直川村〇〇→直川〇〇など、旧町村名が分かるところは(旧町村名)は付記しなかった。
- ④ 区分けは新市単位とし、各市の中は合併前の町村単位に区分けした。
- ⑤ 桁橋の橋名は **植野橋** のようにゴシックの強調文字とした。
- ⑥ 年号には(1815)のように洋年号を付記した。
- ⑦ 旧町村指定有形文化財は合併後、市の指定になったかを確認し、最新の指定を記した。合併前の旧扶間・庄内・湯布院が文化財指定していたものは、由布市に合併後、指定が解除された。よって、旧町指定を表記した。

※「大分の石橋探訪」「オオイトデジタルブック」について／奥付け

<342>

宇治橋

(うじはし)

川の上に建てられた神楽殿のすぐ上流側に架かる。アーチ石は、長い石を使った 1 本組みの橋である。



宇治橋・・・・・・・・・・白杵市大字前田 白馬溪／架設年：不明
橋長：5.5 m／橋幅：1.4 m／径間：4.3 m／環厚：27～28cm／単一アーチ

<343>

岩橋

(いわはし)

白馬溪の最上流、神社の下にある。
桁石 3 本を並べている。



岩橋・・・・・・・・・・白杵市大字前田 白馬溪／架設年：不明
橋 3.1 m／橋幅：1.7 m／単径間円弧桁橋

<344>

高山橋

(たかやまはし)

川を斜断して架設された市道の橋である。上流側を拡幅している。



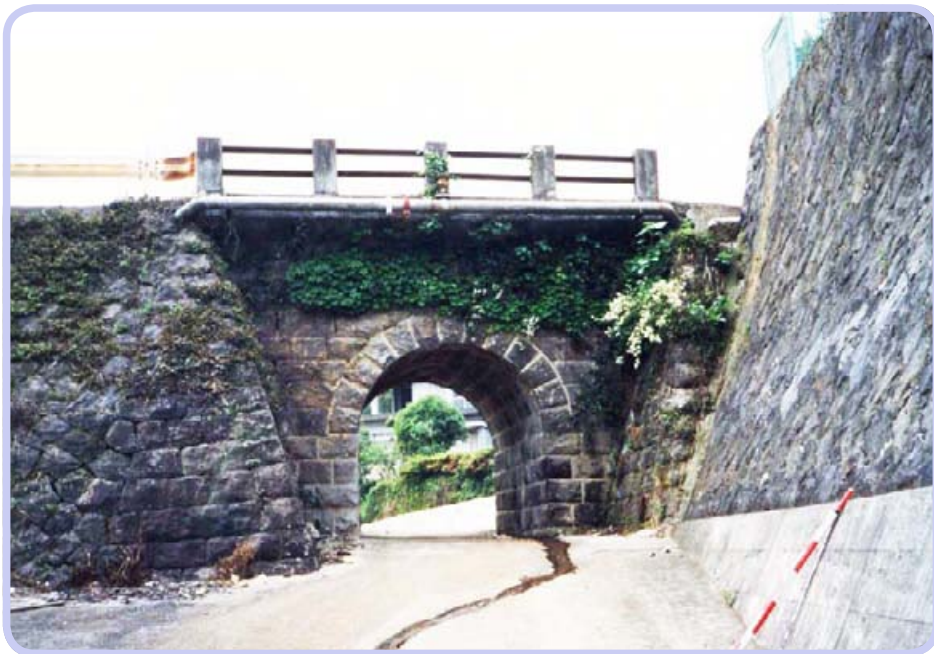
高山橋・・・・・・・・・・臼杵市大字高山／架設年：昭和8年(1933)以前と推定
橋長：7.3 m／橋幅：3.4 m／拱矢：2.4 m／径間：5.1 m／環厚：45cm／単一アーチ

<345>

荒田家野橋

(あらたいえのばし)

家野地区の中程にあり荒田地区に通じている。地区から一段低いたんばに通じる農道の上を渡る市道の橋である。両側を拡幅している。



荒田家野橋・・・臼杵市大字家野／架設年：大正 12 年 (1923)／橋長：6.1 m
橋幅：3.6 m／拱矢：1.2 m／径間：2.4 m／環厚：40cm／単一アーチ

<346>

【才倉橋】

(さいくらばし)

大分市吉野から臼杵に通じる県道25号を進み右手（中臼杵小学校の下に）に架設されていた。川野茂太郎が架けた石橋である。平成5年（1993）、中臼杵川の河川改修で架け替えられた。



【才倉橋】・・・臼杵市大字中臼杵／架設年：大正11年（1922）4月／橋長：10.5 m
拱幅 2.4 m／拱矢：3.5 m／径間：8.5 m／環厚：45cm／単一アーチ

<347>

久保橋
(くぼはし)

豊後大野市や竹田まで多くの石橋を架けた地元の石工川野茂太郎の最後の架設とされているが、再築されている。中臼杵川の浅い流れの中に、整い過ぎた形を映している。市道の橋である。



久保橋 ・ ・ ・ ・ ・ 臼杵市大字吉小野 久保／架設年：大正 14 年 (1925)4 月
橋長：15.4 m／橋幅：4.4 m／径間：6.3 m／環厚：40cm／2 連アーチ

<348>

川代橋

(かわしろばし)

白杵町（当時）に通じる道路を開削した記念碑があるので、道路と同時期に架設したものと思われる。石工は山下嘉平と地元の石工である。農免道から通じている市道の橋である。



川代橋・・・・・・・・・・白杵市大字吉小野 王座／架設年：大正 15 年 (1926) 春
橋長：6.5 m／橋幅：2.4 m／拱矢：1.8 m／径間：3.6 m／環厚：37cm／単一アーチ

<349>

川原橋

(かわはるはし)

下流側を石のアーチで拡幅して橋幅を 3.8 m にしてある。市道の橋であるが詳細は不明である。



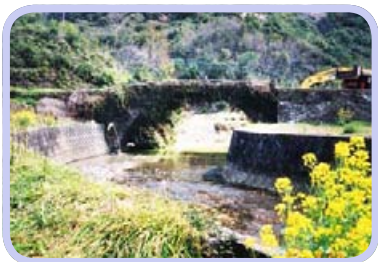
川原橋・・・臼杵市大字久木小野川原／架設年：昭和 18 年 (1943)／橋長：7.4 m
橋幅：3.8 m／拱矢：2.25 と 2.4 m／径間：5.5 m／環厚：35cm／単一アーチ

<350>

大典橋

(たいてんばし)

橋名から、昭和の御大典記念に架設されたことは判るが、この他の詳しいことは判らない。市道の橋である。石工は地元の上尾・江川の2人である。



大典橋・・・・・・白杵市大字武山 堤内／架設年：昭和3年(1928)11月
橋長：11.1 m／橋幅：2.6 m／単一アーチ

<351>

吐合橋

(はきあいばし)

大分市との境に架かる。勘場川の上流で、普段は水の流れはほとんどない。すぐ脇に大きな自然石（長さ2.8 m 幅 1.5 m）を渡して橋にしていたが、白杵・府内間の旧道であったともいわれる。大分市側に記念碑があるが石工は吉野村（現大分市）平嶋伝と伊東勇である。



吐合橋・・・白杵市大字武山／架設年：昭和6年(1931)10月／橋長：7.9 m
橋幅：4.2 m／拱矢：2.0 m／径間：3.9 m／環厚：46cm／単一アーチ

<352>

音波橋

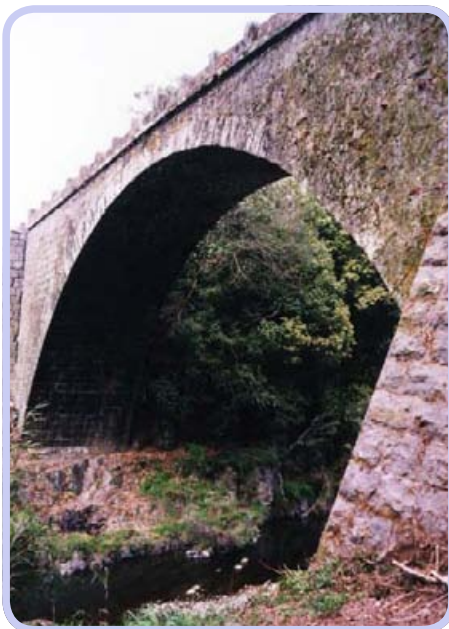
(おとわばし)



<352>

音波橋

(その2)



地元出身の事業家麻生音波氏が資金を出して架設したもので、橋名になっている。高須音波橋ともいう。右岸は旧白杵市・左岸は旧野津町で、白杵川の深い谷の空間に浮いている。

記念碑には、当時の兩岸の村の議員などの名前も刻んであり喜びの大きさもうかがえる。現在は利用する

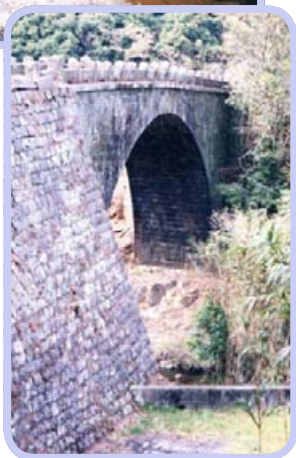
人もほとんどない静かなたたずまいである。石工は近くの竹尾伊三郎以下4名である。

音波橋・・・白杵市大字高山 高須／架設年：明治 45 年 (1912)／橋長：32.7 m／橋幅：4.0 m
拱矢：8.9 m／径間：24.0 m／環厚：80cm／単一アーチ／市指定有形文化財

<352>

音波橋

(その3)



<352>

音波橋

(その4)



91年10月撮影の
音波橋。前ページま
での写真は96年4
月撮影のもの

<353>

乙見橋

(おとみばし)

橋名は仮称である。臼杵藩の藩道とされている。兩岸に積んだ自然石造りの橋台に、大きな一枚岩(4.5 × 2.5 × 0.6 mほど)を渡した石橋で、県内一の大きなものである。旧野津町境の間戸川車橋に続いていた道である。



乙見橋・・・・・・・・臼杵市大字乙見／架設年：江戸後期（1780～1868）と推定
橋長：4.5 m／橋幅：2.0 m／単径間桁橋

<354>

近戸橋

(ちかどばし)



<354>

近戸橋

(その2)

音波橋の上流にある。昭和 44 年 (1969) 乙見ダムに水没した。満水時は橋面の上まで水位が上昇する。この橋の架設は、臼杵市野津町落谷から臼杵市搔懐までの道路工事の一環として行われ総工費は 14,028 円余となっている。

橋の請負人堀太市は私財 3,000 円余を投じたい。石工は釘宮八重蔵・足立三代蔵・芦刈倉蔵の 3 名である。アーチの上で櫓を組んだ工事中の珍しい写真がある。

左岸上流側の壁石は昭和初期に積み直しており布積みとなっている。要石の上、橋面までの土被りの厚さは石一本程度のようなのである。

右岸起拱石下の岩にクラックがあり、左岸下流側の壁石に孕みが見られる。



近戸橋・・・臼杵市大字乙見／架設年：明治 26 年 (1893) 6 月／橋長：26.7 m
橋幅：5.4 m／拱矢：11.1 m／径間：23.7 m／環厚：60～80cm／単一アーチ

<354>

近戸橋

(その3)



<355>

杭河内橋

(くえがわちばし)

白杵市乙見・津久見間の県道 204 号の橋である。下流側を拡幅しており、両岸を補強している。



杭河内橋・・・白杵市大字乙見 杭河内／架設年：大正初（1912～1917）と推定
橋長：9.6 m／橋幅：3.5 m／拱矢：2.7 m／径間：5.4 m／環厚：41cm／単一アーチ

■大分の石橋探訪 (おおいたのいしばたんぼう)

石橋の魅力に取り付かれた一人の石橋研究家、元大分の石橋を研究する会会長の岡崎文雄氏が昭和 61 年から大分県に散在する大小の石橋を探し求めて 20 年、流失・撤去を含めた 618 橋の所在を確認、その歴史と諸元を記録し約 1000 枚の写真とともに電子ブックにまとめた。

■筆者・・・・・・岡崎 文雄 (おかざき ふみお) 氏

大正 13 年 大分郡挾間町生まれ (現由布市)
昭和 57 年 宮崎県を退職
昭和 62 年 大分の石橋を研究する会・日本の石橋を守る会会員
平成 5 年 「魅せられて・里の石橋たち」共著
平成 6 年 「大分の石橋記念碑」自費出版
平成 8 年 「伝えたい・ふるさとの石橋」共著
平成 13 年 「宮崎県の石造アーチ橋」自費出版
平成 14 年 大分の石橋を研究する会 会長

(現住所：大分市緑ヶ丘 4-12-10)

「大分の石橋探訪」 Vol.32：白杵市 (2) © 岡崎 文雄

2007 年 11 月 9 日初版発行

筆者 岡崎文雄

編集 大分合同新聞社

制作 別府大学メディア教育・研究センター地域連携部

発行 NAN-NAN 事務局

〒 870-8605 大分市府内町 3-9-15 大分合同新聞社総合企画部内

■オオイタデジタルブックとは

オオイタデジタルブックは、大分合同新聞社と学校法人別府大学が、大分の文化振興の一助となることを願って立ち上げたインターネット活用プロジェクト「NAN-NAN (なんなん)」の一環です。NAN-NAN では、大分の文化と歴史を伝承していくうえで重要な、さまざまな文書や資料をデジタル化して公開します。そして、読者からの指摘・追加情報を受けながら逐次、改訂して充実発展を図っていきたくと願っています。情報があれば、ぜひ NAN-NAN 事務局にお寄せください。

NAN-NAN では、この「別府今昔」以外にもデジタルブック等をホームページで公開しています。インターネットに接続のうえ下のボタンをクリックすると、ホームページが立ち上がります。

まずは、クリック！！

